

コスタリカの長寿と社会環境要因の検討

渡邊司¹⁾、今村美帆子¹⁾、阿部文絵¹⁾、古西勇²⁾、
瀧口徹²⁾

- 1) 新潟医療福祉大学大学院 JICA プログラム
- 2) 新潟医療福祉大学

【背景・目的】本研究は新潟医療福祉大学大学院（修士課程）国際保健医療学演習Ⅱの一部である。コスタリカは長寿の国として有名である一方で、成人の肥満率が問題となっている。スペイン語を母国語とする中米諸国を、保健・医療・福祉の面で比較検討し、この相反する関係が何故成り立っているかを巨視的な視点で把握することを目的とした。

【方法】フィールドワークおよび居住者から提供されたスーパーの陳列棚の写真、世界銀行（World Bank）、国際保健機関（World Health Organization）、国連薬物犯罪事務所（United Nations Office on Drugs and Crime）、参考書から保健・医療・福祉に関する情報を収集し、得られた情報から長寿に関連する特性要因図（図1）を作成しコスタリカと近隣諸国の違いを比較した。

【結果】コスタリカが平均寿命¹⁾、栄養不足の有病率¹⁾、乳幼児死亡率¹⁾、一人当たりの総医療費²⁾、10万人当たりの殺人³⁾において最も良い結果を示した。しかし肥満率¹⁾に関しては、男女ともにパナマに次いでコスタリカが高い結果を示しており、中米諸国の中でも肥満者が多い国であることが分かった（表1）。各国の居住者から提供されたスーパーの陳列棚の写真から、スーパーで販売されている商品に大きな差は確認できなかった。フィールドワークから、中米諸国の主食は米・豆やトルティージャ、主菜は豚肉・鶏肉・牛肉やチーズが多く食べられており、魚介類は余り食べられていないこと、また、副菜は積極的に食されていないことが分かった。近年、中米諸国においてもファストフード店が進出しており、食生活の欧米化が進んでいた。

表1 長寿に関する中米諸国の社会環境要因の比較

	コスタリカ	パナマ	ニカラグア	ホンジュラス	エルサルバドル	グアテマラ
平均寿命(歳)	79.4	77.6	72.8	73.1	72.8	71.7
成人男性肥満率(%)	19.2	20.6	10.8	12.4	15.9	13.0
成人女性肥満率(%)	29.5	33.1	23.2	24.1	27.0	23.9
栄養不足の有病率(%)	5.0	9.5	16.6	12.2	12.4	15.6
乳幼児死亡率(%)	8.5	14.6	18.8	17.4	14.4	24.3
1人当たりの総医療費(USD)	970	959	177	212	280	233
10万人当たりの殺人(件)	8.7	17.4	11.5	86.1	41.3	33.5

コスタリカの社会保障制度は1961年の憲法改正を契機に充実してきており、医療保険のカバー率は1955-1960年代にかけて12%から15%と微増であったが、1965年には30%、1975年には65%と拡大し、2009年には83%となっている⁴⁾。平均寿命は1970年代では68.1歳であったが、1990年代には76.3歳と中米において最も長くなり、現在はラテンアメリカやアメリカ合衆国よりも長寿と

なっている⁵⁾。乳幼児死亡率は1970年代では52.6%であったが、1990年代には13.7%、現在は中米諸国の中で最も低い数値を示している⁴⁾。経済面は1990-2009年において、ジニ係数は0.438-0.501の間で推移している。これは同時期のパナマやメキシコと比較しても低い値であり、所得配分は比較的平等な国であると言える⁴⁾。安定した経済と医療保障制度の充実により、10万人当たりの殺人、栄養不足の有病率や1人当たりの総医療費においてもコスタリカが最も良好な数値を示している。また、1972年には死亡原因の10.1%を占めていた感染症および寄生虫は、2003年には0.95%と大幅な減少が得られている。

【考察】コスタリカは、図1に挙げた長寿要因のうち、高齢化・食生活の欧米化や肥満率の増加により、糖尿病・循環器系疾病による死亡率は増加しているが⁵⁾、その他の要因は長寿を促進する報告で変遷してきており、その結果、平均寿命は延長していると考えられた。

【結論】高い肥満率を示しているコスタリカにおいて、糖尿病や循環器系疾病による死亡率は増加しているが、安定した経済と医療保障制度の充実による総合力により、コスタリカの長寿が築かれている可能性がある。

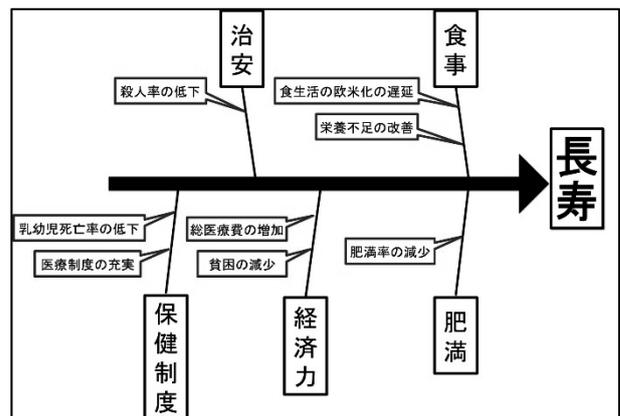


図1 長寿に向けた社会環境要因の特性要因図

【文献】

- 1) THE WORLD BANK: Working for a World Free of Poverty, <http://www.worldbank.org/en/country>
- 2) World Health Organization: Global Health Expenditure Database, <http://apps.who.int/nha/database/Home/Index/en>
- 3) UNODC: Global Study on Homicide, <https://www.unodc.org/gsh/>
- 4) 山岡加奈子：岐路に立つコスタリカ-新自由主義か社会民主主義か-, アジア経済研究所, 109-121, 2014.
- 5) 国際協力機構コスタリカ駐在員事務所：リハビリテーションの現状と展望（コスタリカ国）, <http://gwwweb.jica.go.jp/km/FSubject0601.nsf/03a114c1448e2ca449256f2b003e6f57/f1692ec3188fd280492572f9002bdfcc/>